

## 2 入院患者で転倒・転落の結果、骨折または頭蓋内出血が発生した件数

分子 発生件数

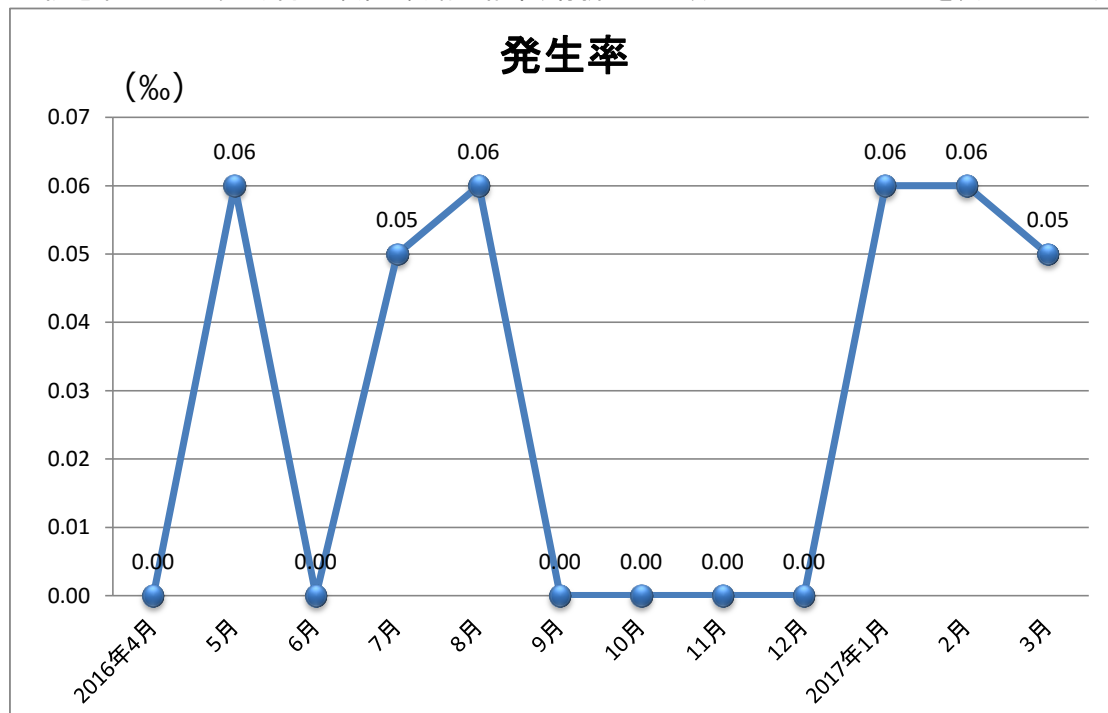
分母 計測期間における、延入院患者数

※ 分母設定は「75歳以上の退院患者数」、分子設定は「分母のうち、入院中に大腿骨骨折を発生した患者数」としている病院もあります。(国立病院機構臨床評価指標)

年月	2016年4月	2016年5月	2016年6月	2016年7月	2016年8月	2016年9月	2016年10月	2016年11月	2016年12月	2017年1月	2017年2月	2017年3月	年間
分子	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	1	1	6
分母	17,852	18,025	18,509	18,830	18,028	17,394	18,113	18,137	18,161	17,077	16,980	18,597	215,703
発生率(‰)	0.00	0.06	0.00	0.05	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.05	0.03
転倒転落報告件数	22	38	47	42	37	28	31	27	51	49	30	31	433

・計算式 パーミル(‰)

・入院患者1000人あたり何人 転倒・転落の結果、骨折または頭蓋内出血しているかを表している  $\frac{\text{分子}}{\text{分母}} \times 1000$



### <解説>

転倒・転落により、骨折等の外傷が発生した場合、患者さんの生活の質(QOL)の低下や回復の遅延を招き、また入院期間の延長により医療費も増大させる等、様々な弊害をもたらします。しかし、予防に全力を尽くしても予防が困難な場合もあります。

このため、予防対策に加え、転倒・転落が発生しても大きな障害をもたらすことがない対策を講じていくことも重要となります。